

鳥取神青通信

第 3 号

発行元
鳥取県神道青年会
編 集
西部青年神職会

創立三十周年記念大会開催

門 脇 豊 文

本会は、昭和三十八年十二月、地域毎の組織の充実を図る協議体（鳥取県神道青年協議会）として発足し、

江忠愛西部支部長、中田武伸神青協中国地区理事（神青協会長代理）の臨席を賜り開催されました。

若葦会、中部青神、西部青神各会の活動が定着したことを受けて、昭和五十四年九月、十五周年を契機に、鳥取県神道青年会に名称を変更し、県内の神道青年相互の親睦を図ることを目的として各種活動を行っています。

創立三十周年記念大会は六月十一日、米子市鴨御祖神社並びに米子ニューアーバンホテルに於いて、来賓として松田幸史県神社庁長、松田因善県総代会会長、安

まず、鴨御祖神社に於いて、会員奉仕の下、不肖私が祭主を努めて祭典が執行され、三十周年を言祝ぎ、本会の発展と会員をはじめ関係者の益々の隆昌を祈念すると共に、一月十七日に発生した阪神淡路大震災の早期復興を祈念しました。祭典終了後、東・中・西の相伝楽を奉納し、相互研修を行いました。記念式典は、佐々木会長の挨拶の後、初代会長でもある松田庁長より、若い力

を結集し、神社神道の根幹に係わる道を模索し続けることが本会創立時の目的であり、私たち一人一人の雑草が力を合わせたところに、本当の正しい日本の姿があるとの祝辞を賜り、元会長遠藤政人氏、前会長米原尊仁氏に記念品が贈呈されました。式典終了後の懇親会では会員相互の親睦を深めると共に、先輩諸兄から我々青神に期する思いが語られ、大いに盛り上がり、有意義な一時が過ぎて行きました。阪神淡路大震災を考慮し、質素儉約の大会となりましたが、多くの先輩諸兄の参加を賜り、会長以下会員の一致協力のもと無事に開催されましたことに感謝いたします。

退任挨拶

佐々木 克 秀

鳥取県神道青年会は、先輩方が戦後の混乱期に将来を憂い斯界の尖兵として立ち上がられてより、前米原会長に至るまで、その活動を展開してこられたわけでありましたが、我々も先輩各位の築き上げられた輝かしい実績と成果をふまえつつ更に少しでも評価の頂けるような活動をしなければならないと、もとより会長の重責を担い得る知識も才能も持ち合わせない浅学非才の身ではございましたが、全力で努め上げようとお引受けいたしました。

任期中大きな事業が三つありました。

平成五年九月、米子市のホテルサンルートを主会場に中国地区氏子青年会神道青年会の合同研修会を開催。七年には阪神大震災の救援事業として物資の郵送又ボランティア八名派遣。

同年、鳥取県神道青年会三十周年記念事業として、阪神大震災早期復興祈願祭を米子市の鴨御祖神社で、又記念式典を米子ニューアーバンホテルで行ないました。

その他諸事業・行事、無事なんとか成就出来ましたのも先輩方のご指導とご厚情のお陰と感謝致しております。又会員諸兄の絶大なご支援・ご協力のお陰と衷心よりお礼申し上げます。

これからは初心に返り神明奉仕に社務遂行に、微力ながら努めたいと考えております。

陰ながら今後の神道青年会が会員の相互の理解を深め、新たな活動を展開していくよう、内なる充実と益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして退任の挨拶とさせていただきます。

阪神大震災 支援報告

青 砥 一 彦

平成七年一月十七日未明阪神淡路島方面を襲った大震災は、マスメディアが伝える情報を通じ現地の状況を知るにつれ、我々の想像をはるかに越えた未曾有のものでありました。当時鳥取県神道青年会事務局であった私の許には各方面からの震災支援の要請や、現地からの現状を伝えるFAXが矢継ぎ早に入っていました。私も県神青会も早急に役員会を招集し、支援活動につき協議した結果、情報が行き交い安全が確保が出来ない所へ会員を派遣すべきでないとする佐々木会長の意見により、当面は物資の支援を行なうこととし、ブルーシート・ロープ等を発送しました。その作業のなかで、直接現地に物資が搬入できない現状に改めて現地の惨状を思い知らされ

たものでした。

その後、神道青年全国協議会の中に阪神大震災対策本部が設置され、これにより現地の要望が取り纏められ、各単位会毎の支援活動が一元化されつつあった三月二十三日二十四日の両日県神青会の有志七名が支援活動に赴いたのです。

渋滞を避け、前日の夜半出発した会員は、東灘区の弓弦羽（ゆずるは）神社に集合し中国五県の各単位会会員と共に近辺各神社の補修・撤去搬出作業にあたりました。この手の作業に手慣れた会員もおられ、また好天に恵まれたこともあり私共の出来る限り御神域の堅持に努力いたしました。現地の方々の暮らしに漸く落ち着きが戻ってきたのは、新聞・テレビ等で知り得るものの比ではなく、押しつぶされた建物、道に横たわるコンクリート塊、黒

い野原になった焼け跡等、胸締めつけられるものばかりでした。その見渡すかぎりの瓦礫の中であって、倒壊を免れた御本殿が凛と建つ様に自然と手を合わせたのは、私たちが神職であったからだけではないと思うのです。

末尾になりましたが、神青協会長 西高辻信良氏・



神青協近畿地区理事 加藤芳哉氏・兵庫県神道青年会会長 高島俊紀氏連名で阪神大震災初期対応への御礼がありました事、併せて報告いたします。

神青協・中国地区 理事を退任して

米 原 尊 仁

平成五年四月に、神青協中国地区選出理事という大任を仰せつかった訳ですが、当初は二年間の任期が務まるかどうか、大変不安な思いでした。しかしながら、県内の会員の皆様の絶大なる支援を頂きまして、何とか無事にその任務を遂行できましたことを厚く御礼申し上げます。

思い返しますのに、奥尻の震災に始まり未だ記憶に新しい阪神・淡路の大震災で終わったような気が致します。特に阪神・淡路の大震災の折には、県内会員の皆様の支援活動に於ける

御活躍は申すまでもなく、中国地区全体の敏速な行動に感謝致しております。

後日開催されました神青協臨時総会の折には、兵庫神青の高嶋会長より中国地区の支援活動に対する御礼の言葉を頂き、地区理事と致しまして大変嬉しく思いました。

この大震災の影響に依りまして、かねてより準備致しておりました山口県開催の中央研修会の延期を余儀なくされました。私は既に退会致しておりますが、来る平成八年二月二十六日・二十七日の両日に開催される運びとなっているようです。

是非とも中田中国地区選出理事を中心として、中国五県の会員の皆様の一致協力のもとこの中央研修会が、盛会のうちに納められますことを衷心より御祈念申し上げます。

最後に任期中の御厚情に深く感謝申し上げます。

雑 感

西部支部長 安 江 忠 愛

「誰でもよい一声かけて通れ」父親から言われた一言、見知らぬ人から小学生に至るまで……、田舎であるから出来る事である。井戸端の会議なれば安易であるが五〇人、七〇人の前となれば……。

種々の講があり祝宴となれば話のきっかけを求められる、とにかく神主は人が良いのか、正直なのか話下手が多いと思う、私もその一人である、話上手になりたいと思う。

御神酒が入ると俄然話題が続出、盛上がる。最近のニュースは話題多く事欠かない、いじめ、非行、不登校、自殺等々、特に目を引いたのが「夫婦別姓」問題である、神社新報も大きく取り上げている。

古来より家族制度を培って来た我々には当理想像も出来なかつた事、社会共同

体の最小単位である家族の

重要性の軽視、家族の一体感

を喪失させ、家族の崩壊

にも繋がりかねないと思う。

夫婦間の子どもの問題等

にも大きな影響も出て来る

だろう、墓地の石塔は？、

一本の石塔に夫の姓、妻の

姓を書き、建立年月日も西

暦を書く者も出てくる時代

になりかねない。

先日、三〇人程の集まり

の時、雑談になってこの夫

婦別姓の事を話して見た、

知らなかつたとびっくりし

ていた人も多く、「そんな

事になってたまるか」、と

意気まいていた。

多くの人の中に溶け込み、

高齢社会の人はまだしも、

これからの若い人をひきつ

ける神社活動、運営には、

普段からの挨拶もあれば、

一声の駄弁でも良い、何時

でも相手になつてくれると

思っている。

楽しい集いに
生まれる奉仕

鳥取支部長 永 江 則 英

青年神職の方々と平素のふれあいは、鳥取支部内の青年神職の方々とは神社界事業を通して、また因幡地域の「若葦会」のご活躍の際、臨席させていただいた

りもそのご活躍が盛んであります。そして相互の会話にユーモアがあり、実に打ち解けておられることです。「楽しい集いに、生まれる奉仕」とでも言いましょうか、これが集いの基本であるうかと思えます。

いつも感じることは、通信・交通等がスムーズになつた時世にもよりましようけれども、私たちの青年期よ

青神の活動は、斯界への奉仕が中心となると思いますが、同時に生涯教育が唱

えられてゐる昨今、大衆に

を付け加えます。私を含めて、歳を重ねる程その機会を失うからです。

昨年は大東亜戦争終結五十周年に当り、県神社庁に先駆けて県神青協自体による報恩感謝祭が護国神社にて美事に執行されました。近年のヒットと言ふべきで心から敬意を表します。皆さまのいよいよのご活躍に期待します。

平成六年度鳥取県神道青年会事業

八月二十八日	若葦会創立三十周年記念式典	東部若葦会
九月二十二日	県護国神社秋季大祭 衣紋着付奉仕	東部若葦会
十月二十日	鎮霊神社秋季大祭 祭典奉仕	中部青年神職会
十一月二十六日	若葦会卓上研修会 ボウリング大会	東部若葦会
二月十一日	勝田神社建国祭奉仕	西部青年神職会
二月十一日	瀬戸神社建国祭奉仕	中部青年神職会
三月二十三日	阪神大震災復旧支援奉仕	
三月二十四日		
四月二十日	県護国神社春季例大祭 衣紋着付奉仕	東部若葦会
四月二十三日	国旗掲揚推進運動「日の丸パレード」	中部青年神職会
六月十一日	鳥取県神道青年会創立三十周年記念式典	

東・中・西 単 位 会 報 告

東 部 若 葦 会

東部若葦会は、昭和三十八年七月に発足されてより、平成六年を以って三十周年を迎えました。この年に会員一同は「若葦会三十年の歩み」を刊行し、八月二十八日に芙蓉第一ホテルにて「若葦会発足三十年記念大会」を開催しました。

当日の参加者は四十七名をかぞえ、祝賀会では歴代会員諸氏からお借りしたスナップ写真をスライド上映し、当時の様々な思い出話を語って頂きました。若手会員とOB会員が祝杯を酌み交わす場面等も伺え、参加者全員が若葦会の栄を祈念し、閉会となりました。

十一月には、神社庁鳥取支部と合同で卓上研修会を執り行いました。平成六年度の教化テーマである「鎮守の森からの教化活動」について、会員の公民館主任・

ボーイスカウト等の立場での体験話を交えて話し合いました。又、当日には若手会員が中心になり、ポウリング大会を開催しました。

今後、このような若手会員主動の催しも執り行っていくと考えております。

東部若葦神職の更なる奮起を！

中 部 青 年 神 職 会

中部青年神職会では、「日の丸パレード」「鎮霊神社秋季大祭奉仕」等、各事業に毎年取り組み、又何かを記念した事業を単年度で実施しておりますが、今年度は、「建国祭奉仕について」を記載させて頂きます。

東部・西部青年神の皆様方は、古くから取り組んでおられますが、中部では、平成二年に初めて建国祭を青年事業で取り組もうということになり、三年間は、賀

茂神社（吉田武章宮司）、続いて波々木神社（前田定彦宮司）・村上神社（船越芳昭宮司）で、本年度は、瀬戸神社（井上正典宮司）でお世話になり奉仕させて頂きました。

中部では、毎年奉仕神社を変え、初めて行く神社で、又そこでの氏子総代さん方との親睦等、大変勉強になることが多く、中部青年神の重要な柱の事業のひとつとなっております。

何十年か先には、中部支部の全宮司さんのお社をおとづれることと思われま

西 部 青 年 神 職 会

新 入 会 員 紹 介

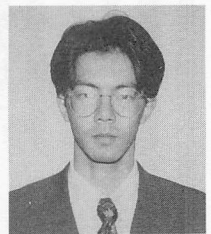
氏名 山 本 育 朗

（やまもと いくろう）

住所 会見町金田五四七

奉務神社

熊 野 神 社



はじめまして、熊野神社彌宜の山本育朗と申します。

私の奉職する熊野神社は、西伯郡会見町にあり、周囲を山とたんばに囲まれた、静かな田舎の神社です。地元の氏子さん達の信仰も厚く、よく協力してくださり、そうした好環境の中で、地元に着した神社として年間の様々な神事を行っております。

私の家は代々熊野神社に奉職する神職として続いてきましたが、私の祖父は早くに他界し、父がこれまで独りで何もかもやってきました。そうした父の姿を見ながら育った私は、父が健在で、いろいろと教わる事ができることをたいへん幸せに思います。また、父の努力と苦労に報いるため

にも、早く一人前の神職になり、父に楽をさせてやりたいと思います。そして、父の意思を引き継ぎ、熊野神社の繁栄と、神社神道の発展に力を尽くしたいと思っています。

とは言え、まだまだ未熟者の私です。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

編 集 後 記

本会も昭和三十八年の発足以来三十周年を迎えましたが、その前身として、昭和二十七年八月に鳥取県青年神職会が発足されています。終戦後の混乱期でもあり、県内各地区の単位会も時の流れと共に夫々の消長を辿る中、現在の各単位会の礎ともなる運動を展開されていたようです。諸先輩方の苦勞の下に築き上げられた本会を益々発展させて行くことが我々の使命と考えます。